

2016年4月30日

「患者学」 患者の語りから 患者-医師関係を考える



東京医科大学八王子医療センター
青木 昭子

東京医科大学看護学科
瀬戸山陽子

患者学

到達目標

- 1) 患者・家族の考え方の特徴が理解できる
- 2) 医師の対応の原則が理解できる

医者常識は、世間の非常識？！

医療者の気持ち、分かってもらえるとは限らない

コミュニケーションの溝を越えるために

患者が理解できなかった主な言葉

言葉	意味	事例
糜爛 びらん	上皮が破壊され下の組織が露出した状態	理解されず「ただれ」と説明しなおした
穿孔 せんこう	臓器に穴が開いた状態	「先行」と間違われた。穴が開くことと話すようにしている
寛解 かんかい	症状などが好転や消失すること	病気が治る「治癒」と比較して説明するが理解されないことが多い
腹腔鏡手術 ふくこうきょう	腹に小さな穴を開けカメラをみながら手術すること	内視鏡と勘違いされた。手術の説明でなかなか分かってもらえない
川崎病	全身の血管に炎症を起こす病気	公害ですかと質問された。公害と勘違いし、自宅環境が悪いのが原因と考えた家族がいた
MRI検査	磁石と電波を使い体内の状態を断面像として描写する検査	テレビの影響かすべての病気を判断できると思っている人が多い

※国立国語研究所の調査から

患者さんの知りたい 患者さんの本音を聴くことはできるか？

闘病記；患者本人やその家族によって綴られた体験記

映画・ドラマ

ブログ，フェイスブック，ツイッター

インターネット上に公開された

患者の語りデータベース

DIPEX (ディペックス) の紹介

背景：患者の「体験」への注目

- 「患者中心医療」
- EBMにおける、Evidence偏重への批判
- いくら高いエビデンスがあっても、個人がその治療を好まなかったら・・・？
- ⇒エビデンスだけでは決められない。

個別の患者の**体験**
個人の多様な**価値観**

を理解することが求められる

ふたりの医療者の思い・・・

自分たちは、医学的な知識は豊富に持っているが、
患者としての経験に無知だった・・・
医療情報は、“エビデンス”だけでは不十分。
患者体験（ナラティブ）を、「医療情報」に。



薬理学者：
Andrew Herxheimerさん

膝関節の置換術を
受けた経験から・・・



一般医：
Ann McPhersonさん

乳がんにかかった
経験から・・・

イギリス発： 「患者の体験談」のデータベース

- イギリス・オックスフォード大学のプライマリーヘルスケア部門
+ ディペックスチャリティ（非営利団体）
- 2001年にディペックスを作成
- DIPE x
= Database of Individual Patient Experiences
“患者の体験のデータベース”
（のちにHealthtalkに改名）

DIPExとは

- Maximum Variation Sampling : 年齢や居住地、治療の種類などに関して、できる限り幅広くサンプリング
- 当事者にインタビューを行い、質的分析手法を用いて“何を話しているか”（トピック）を分析
- 映像と音声、テキストでインターネット上に公開
- 「*Evidence*と並んで、個人の体験談である*Narrative*は、重要な患者向けの医療情報である」
- 英国医学研究者会議（MRC）、英国立保健学研究所（NIHR）、英国立がん研究所（NCRI）などで紹介

この後スライド9枚あります

- 医師と患者のすれ違いの例を、4人の患者の語りで紹介しています。